

はばたき

神戸の動物園グラフ



K O B E
O J I Z O O

October 2007 No.61
神戸市立王子動物園 第61号

はじめに

園長の一口メモ ～出産に備えて～

神戸市立王子動物園 園長

石川 理

動物園の動物たちの出産は、野生で生活する動物たちと違って、外敵に襲われる心配はないものの仲間の手助けは望めませんので、キーパーや獣医の世話が必要になります。

このため事前の準備が欠かせません。キーパーや獣医は国内外の出産例や哺育例の報告を集め、動物舎そのものを出産に合わせ改造する必要があります。現在ではそれぞれの動物の妊娠期間、行動変化或いは血液、尿中のホルモンデータの変化などで出産時期はある程度予測ができ、急な出産で大慌てすることはありませんが、それでも正常な分娩が行われるのかとても心配になります。また、出産後無事母親が面倒を見てくれればよいのですが、育ててくれないことも考え、人工哺育の準備も並行して行なわなければなりません。

動物園で飼育されている動物は群れで飼育されていることが少なく、野生で生活する動物のように仲間の行動を見て学習する機会に恵まれません。このため人工哺育になる場合が多いのですが、こうなるとキーパーや獣医は本来母親が行う育児を一手に引き受けることになり、離乳するまでの期間が長い動物の場合大変です。

今年はカバの子が出産後すぐに亡くなり、ジャイアントパンダも死産という残念な結果になりました。動物園の職員一同次回の出産に向けて万全の備えをし、皆様方に元気でかわいい子供の姿を見てもらいたいと思っています。



表紙動物
インドゾウ
(長鼻目ゾウ科)
Elephas maximus
インドからマレー半島の森林に群れですんでいます。主に樹葉と草を食べます。妊娠期間は哺乳類の中では一番長く、約22ヶ月です。日本での出産例は過去に3例だけです。

目次 CONTENTS

表紙	インドゾウ「マック」と「ズゼ」
p1	はじめに「園長の一口メモ ～出産に備えて～」
p2～3	トピックス・イベント「半期分のイベント」
p4～5	特集「ルリコンゴウインコの繁殖」
p6～11	動物たちの出産への準備 (1班)カバ (2班)ジャイアントパンダ・インドホシガメ (3班)インドゾウ
p12	新しい飼育員の紹介 田中・佐藤・中根・下田
p13	動物教室から ZOOっとタイムズ NO.27
p14～15	動物図鑑シリーズ NO.19「カワウソ」 NO.20「ライオン」
p16	動物の話題 ニューフェイス・ベビー誕生・別れ
p17～18	第19回アマチュア動物写真コンクール 特別賞作品掲載
p19～20	特別展より「フラミンゴ特集」
p21	サポーターズコーナー「サポート企業紹介・個人支援者一覧」 動物サポーター・年間パスポート広告
p22	賛助広告 編集後記
裏紙	インドゾウ「諏訪子」 編集後記

第9回夜桜の通り抜け (4月5・6・7日)

園内の桜が見ごろの時期に、ライトアップし、夜桜を来園者に満喫していただきました。



ヒツジの毛刈り (5月13日)

夏を前に、2頭のヒツジたちの伸びた毛を刈りました。また、見学者には羊毛を使ったフェルトの作り方の説明や、刈った毛のプレゼントもしました。



第18回大人のための動物園講座 (6月24日)

飼育員の、それぞれ担当する動物の日ごろ聞けない話を映像を使いながら聞いていただいた後、バックヤードの見学を行いました。



ホッキョクグマに氷をプレゼント (7月16日)

特製のアジ・リンゴ・ソーセージ・バナナの入ったきれいな氷をプレゼントし、2頭のホッキョクグマ「アイス」と「みゆき」に涼を楽しんでもらいました。



第37回サマースクール (7月21・22・23・24・26・27日)

小学生を対象に低学年はバックヤードや調理場の見学、エサやり体験などをしました。また、高学年は獣舎の清掃・エサ作りなど飼育体験、動物の糞を使って紙作りなどをして、消化の仕組みを学びました。



夏休みおもしろ動物教室 (8月12日)

特別展「フラミンゴ特集」の開催にあわせ、繁殖日本一を誇る飼育の裏話やクイズを楽しんでいただきました。また、コフラミンゴの生息地ケニアのナクル湖での最新映像も紹介しました。



「ZOOキャンプ」 (8月4・5日、25・26日)

昨年から始まった、動物園に泊まり夜中の獣舎や、早朝のバックヤードなどで動物たちや園内の様子を見学する「ZOOキャンプ」を今年は2回開催しました。



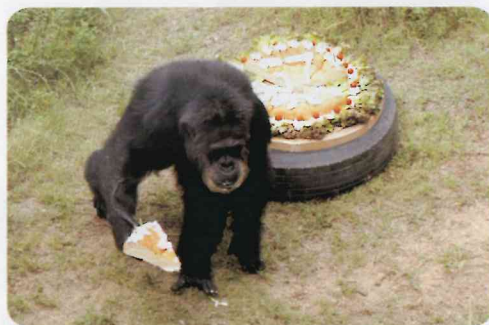
第21回動物絵画教室 (8月23日・24日)

小学生を対象に「肉食獣を描こう」のテーマのもと、小学校の図工教諭を講師に迎え、絵画や粘土作品を仕上げました。また、絵を描く上でも参考となる肉食獣の解説も行いました。



長寿動物にプレゼント (9月17日)

「敬老の日」恒例行事。いずれも国内最高齢のチンパンジー「ジョニー」(57歳)とインドゾウ「諏訪子」(64歳)に大好物をプレゼントし、長寿のお祝いをしました。



(穴戸正芳・森本市郎)

この度、ルリコンゴウインコが1968年(昭和43年)に国内で初めて当園で繁殖に成功して以来、39年ぶりにヒナが誕生しました。

当園では、大型インコを3種類飼育しています。いずれも過去に繁殖例はありますが、久しぶりにルリコンゴウインコが繁殖したので、当園の大型インコの繁殖についてお話ししてみたいと思います。



ルリコンゴウインコのヒナ



巣箱から顔を出したヒナ

大型インコの仲間

インコの種類は300前後ですが、その内大型インコの仲間を総称してコンゴウインコと呼び、十数種類が知られています。インコ類の中で一番大きく体長は40cm位ですが、尾羽が長く40cm～50cmほどあり全長は1m近くなります。かたくて厚みのある嘴(くちばし)で主に木の実や果物を食べています。脚指が前後2本ずつ別れて枝をつかみやすくなっており、樹上生活に適しています。中央アメリカから南アメリカ北部の熱帯雨林に生息しています。

アカコンゴウインコやルリコンゴウインコなどの大型インコは古くから各地の動物園で飼育されていましたが、日本での初めての繁殖が39年前の当園でのルリコンゴウインコでした。その後、アカコンゴウインコが1981年(昭和56年)に広島動物園で繁殖しました。それ以降は、他の種も繁殖していますが、本格的になったのは1990年からです。大型インコの繁殖は、飼育園館及び飼育数の多いわりに、それほど多くはありません。



アカコンゴウインコのヒナ



ヒワコンゴウインコのヒナ

当園の繁殖状況

当園では、アカコンゴウインコ・ルリコンゴウインコ・ヒワコンゴウインコの3種を飼育しており、かつては一番の大型種であるスマレコンゴウインコも飼育していました。スマレコンゴウインコは産卵はしたのですが残念ながらヒナの誕生までには至りませんでした。

これまでに、ルリコンゴウインコは2回、ヒワコンゴウインコは1983年(昭和58年)に1回、これも国内で初めての繁殖でした。この時に産まれたヒナはインコ舎でオス親といっしょにいます。アカコンゴウインコは、1993年(平成5年)から繁殖しはじめ、2003年(平成15年)までに22羽のヒナが誕生しました。残念ながらメスが死亡したため新しいメスをさがしているところです。

今回の繁殖状況

今回、繁殖したルリコンゴウインコのペアは2005年(平成17年)12月に来園した、野生生まれの推定年齢5才の若いペアです。

本年、1月下旬に1回目の産卵がありました。初めての産卵なのでうまく抱卵するか心配でしたが、順調に抱卵していました。巣箱の中の様子を観察しようと巣穴を覗くとすごい勢いで中から威嚇してきました。3個抱卵していましたが1個は中止卵で、あとの2個は無精卵だったので、来年に期待しようと思っていました。ところが4月下旬になるとメスが巣箱に入っていることが多くなり、5月にはほとんど巣箱に入っていました。2回目の産卵をして抱卵していると思われたのですが、刺激をしないように巣箱をの

ぞくのを止めていました。約1ヶ月過ぎた6月8日に巣箱を覗くと、すでに乳児の握りこぶし大まで成長しているヒナがいました。コンゴウインコの生まれたてのヒナは、大人の親指より少し小さい位ですので、すでに1週間から10日たっていると思われました。ヒナの成長は早く、体の大きさが1ヶ月半後には親の6割位まで成長します。2ヶ月位になると巣穴から顔を出し、外の様子をうかがい今にも巣箱から出て行きそうなそぶりを見せますが、巣立ちまでは2ヶ月半から3ヶ月近くかかります。今回のヒナも、約2ヶ月半たった8月20日に無事に巣立ちました。

おわりにあたって

アカコンゴウインコは、最近まで繁殖をしており、多くのヒナを誕生させていたのですがメスが死亡し、しばらくは大型インコの繁殖をあきらめていました。しかし今回ルリコンゴウインコが繁殖しましたので、今後はこの若いペアがアカコンゴウインコに替わって多くのヒナを育ててくれることと思います。

(吉竹 渡)

出産への準備 カバ



動物たちの出産に向けた取り組み ～カバ～



給湯器



隙間を塞いだ柵

「ナミコ」は7月24日の朝、メスの赤ちゃんを出産しましたが、残念ながら2日後に死亡しました。来年こそは元気な赤ちゃんを皆様にご覧いただけるようにしたいと思います。

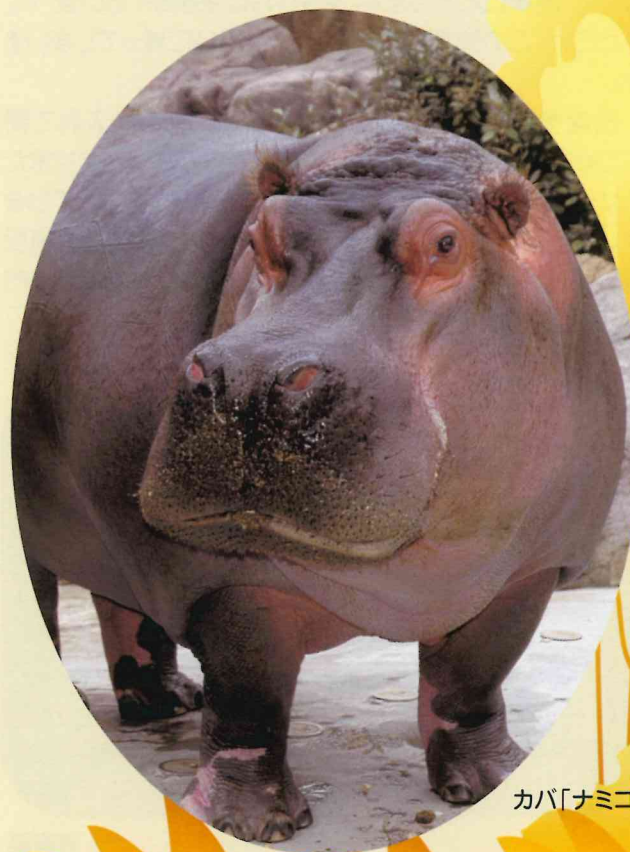
(横田定之)

カバの出産までの取組みについて紹介したいと思います。カバの妊娠期間は210日から240日ぐらいなので、その日数を逆算して暖かい時期に出産するように、前年の冬頃から屋外で交尾ができるように同居させました。

もし寒い季節に出産の時期が重なってしまった場合は、出産予定日の少し前からプールに温水を貯めるようにする必要があります。そのため、カバ舎には給湯器を設置しています。

そのほかにやらなければならないことは、出産後に子どもが母親から離れないように、カバ舎の屋内にある子どもが通れそうな隙間をふさぐことです。ただし、早めに取り付けてしまうと王子動物園のカバ「ナミコ」はふさいでいる板などを破壊してしまう可能性があるため、ふさぐ材質や方法、時期などまだまだ改良の必要がありそうです。この事については屋外で出産する可能性もあるので、屋外についても同じ事が言えます。

交尾の日から計算して、出産予定の時期が近づいてくると、カバの食事量や日常の行動の変化、乳房の張り具合など出産兆候の有無を、毎日観察していきます。



カバ「ナミコ」

出産への準備 ジャイアントパンダ



動物たちの出産に向けた取り組み ～ジャイアントパンダ～



産室で寝ている旦旦



左が人用 右が猫用

前々号で、『パンダの繁殖のための研究』、前号では『繁殖を目的とした行動研究』について書きましたので、今回はメス(旦旦)の出産に向けた準備についてお話します。

パンダは妊娠していなくても、偽妊娠(想像妊娠)になるので、毎年夏頃になると出産の準備を始めます。パンダは着床遅延があるので妊娠期間は、83日～180日くらいと非常に幅が広く、平均4ヶ月から5ヶ月です。妊娠あるいは偽妊娠の兆候は竹などの食べ物をほとんど食べなくなるので、簡単にわかります。通常1日に9時間くらい食べていたのが、この時期になると50分くらいに減ってしまいます。

出産予定日が近づくと、産室にメス(旦旦)を入れて閉じこめます。産室は赤ちゃんが床に落ちて傷ついたり冷たくなったりしないように、床一面にゴムを敷きつめています。また、この時期にはパンダを借りている中国の中国保護大熊猫研究中心から、パンダの赤ちゃんの哺育の専門家2名に来日してもらいます。

出産した場合、母親が赤ちゃんを育ててくれたらいいのですが、もし育児放棄したときには飼育係がミルクをあげて育てないといけませんのです。このため、哺乳瓶やミルク、保育器の準備をします。ミルクはネコ用粉ミルクと人用の粉ミルクを混ぜて与えます。

出産の兆候が出てきたら、24時間体制の観察をはじめます。

今年、初めて「旦旦」は妊娠しましたが、8月12日に死産しました。今回は死産で、残念でしかたがないのですが、来年こそは元気な赤ちゃんが誕生するように頑張ります。

(兼光秀泰)



哺育器



哺乳ビン

出産への準備 インドホシガメ



動物たちの出産に向けた取り組み ～インドホシガメ～



太陽舎では現在、オス8頭、メス9頭、合計17頭のホシガメを飼育しています。当園のホシガメも何度か産卵したことはあるのですが、ここ数年の飼育環境の変化にて、死亡する個体が増え、繁殖の可能性も薄れ欠けていました。なんとか繁殖させたいと思い、今年から再度、本格的に産卵の準備に取りかかることにしました。まず、手始めに行ったのはホシガメの飼育環境を見直すことでした。

爬虫類の繁殖には温度と湿度を高く保つことが大事なので、温室の熱交換機などを調節し、今まで温度の低かった温室を数日かけて熱帯の温度まであげ、乾燥気味だった温室に散水することにより、湿度の安定を心がけました。そして次におこなったのが孵卵器の作製です。いつ再開されるかわからない産卵のために、新しいドライ式の孵卵器2基を作製しました。まず、木で箱を作り、周りに保温用の発泡スチロールを貼り付けました。そして、中にひよこ電球とサーモスタットを取り付け、温度を30℃、湿度を60%ぐらいに保つようにしました。ホシガメの孵化には3ヶ月から6ヶ月かかるので、この期間は卵をこの中に置いておきます。次に行ったのは、ホシガメの産卵場の製作です。ホシガメは土の中に卵を産むので、ホシガメが掘りやすいように土場をつくってあげました。これによりホシガメ達が触発されたのか、産卵行動である穴掘りが頻繁



に行われるようになりました。その結果、いくつかの産卵が見られました。ただ、この卵は体内に長期にわたり貯留されていたようで、孵化は難しく思いましたが、わずかな期待を持ち孵卵器に入れました。ただこれにより、ホシガメ達が産卵の資質を持っていることが解ったので、次からの期待がもてます。次に行ったのが、ホシガメのオスとメスとの分離飼育です。ホシガメの産卵シーズンは9月頃からのので、この夏の期間にオスとメスを分離することにより、発情を促し、産卵行動を活発にするということが、この分離飼育の目的です。これまで行った産卵への準備でも、ホシガメは今までよりも活発に産卵行動を行うようになり、いくつかの産卵も見られました。今後、正常な産卵を含む繁殖行動が実施され、以前のように皆さんに早く可愛い子ども達を見られるように、これからも頑張っていきたいと思いますので、期待して待っていて下さい。

(梅元良次)



孵卵器

出産への準備 インドゾウ



動物たちの出産に向けた取り組み ～インドゾウ～

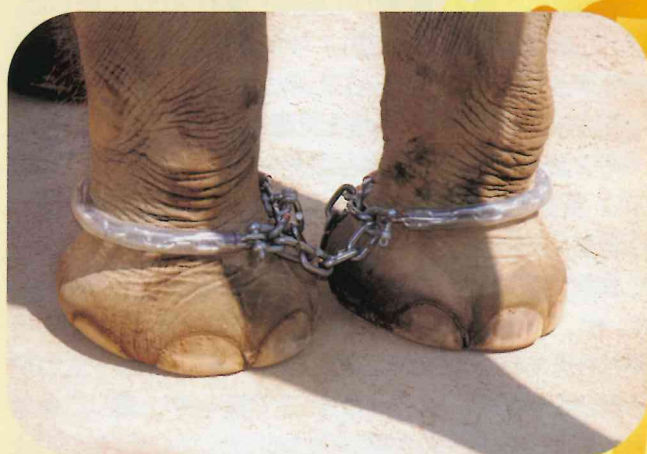


採血の様子

現在王子動物園で飼育しているインドゾウのズゼは妊娠中で、今回で3度目になります。1度目は2002年1月に死産、2度目はみなさんもお存知の「モモ」ですが、残念ながら1才で亡くなりました。3度目の今度こそは...という思いで、現在いろいろと出産準備をしているところです。ここでは私たちゾウ班がおこなっているズゼの出産に向けた準備についてお話しします。

妊娠の確認

出産準備といっても、まずは妊娠が分かなければなりません。ズゼは毎週日曜日に採血をして、ホルモンを調べます。ホルモンを調べれば、妊娠したかどうか判るからです。午後2時頃からの馴致(じゅんち)の後に耳から採血をしているので、お客さんも見るができます。ゾウの妊娠期間は約22ヶ月と言われてしますので、妊娠が判れば出産の予定日も判ります。ちなみに1度目の死産の時



ズゼに装着したベレー

の妊娠期間は671日で、モモを出産した時の妊娠期間は681日でした。

また、今回は群馬サファリパークと協力して、超音波検査器を使って胎児を確認しました。ゾウの赤ちゃんは大き

出産への準備 インドゾウ



動物たちの出産に向けた取り組み ～インドゾウ～

いので体の全部を見ることはできませんでしたが、体の一部が元気良く動いている映像を撮ることができました。

さらに、出産2ヶ月前くらいになると胎動の動きが外からでも見えます。ズゼのお腹をじっと見ていると、足で押すようなふくらみが見えたり、ブルブルとした動きを見ることが出来ます。

出産の4～5日前になると、おしっこが少しずつ何度も出る頻尿や腰を落としていきむ動きが見られます。おっぱいも搾ってみるとミルクが出ます。そうするともうすぐ出産です。

出産に備えて

ズゼは生後3ヶ月の時に母親が死んでしまい、飼育員に育てられました。そのためかモモが生まれた時は子ゾウをどう扱ったら良いのか分からず、パニックになり、子ゾウを蹴ったり、鼻で押さえつけたりしたために、仕方なく私たち飼育員が育てました。しかし今回はズゼに育ててもらう予定で、準備を進めてきました。

まずはズゼが出産しパニックになる前に、一度子ゾウを取り上げます。そのために出産に入る前にズゼの足にチェーンを取り付け、柱につないでおきます。そうすれば飼育員が安全に近づいていけます。馴致をしている時、ズゼの足にチェーンを着けていたら、可哀想と思わずに、出産の準備をしているんだというふうに思ってください。子ゾウがお腹をすかせている時に、ズゼが落ち着いていたら子ゾウをズゼに戻します。この時、ズゼが落ち着いていなかったら、おとなしくさせる注射をしなければなりません。そのために今はズゼのお尻に注射針を軽く刺して、注射



網を張った柵

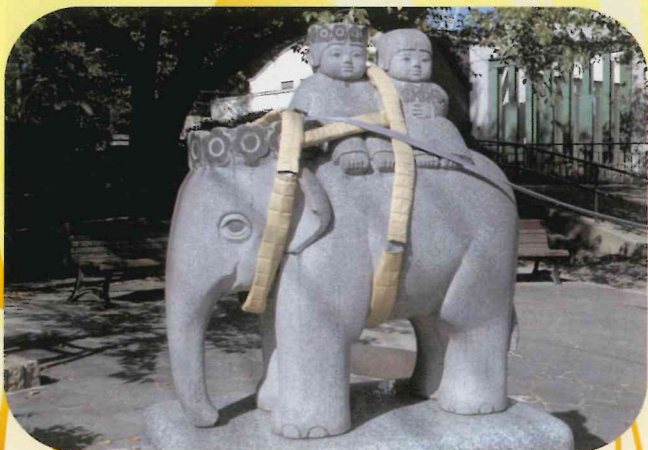
をした時の痛み慣らしています。またズゼが興奮して足を大きく振った時、近くに人が居ればあの大きな足で蹴られて大けがをしてしまいます。それを防ぐためにベレーをかけます。ベレーとはチェーンで両足を結ぶためのものです。これを付ければ、歩き回ったり、足を振り回したりできなくなります。また子ゾウをズゼに近づける時や移動させる時に子ゾウにつけるハーネス(車のシートベルトを用いて作製)も準備しました。

もしズゼが育てなかったり、母乳の出が悪かった時のために、アメリカやドイツで作られているゾウ用ミルクも用意しました。モモの時はヒト用のミルクで育てたためか、ウンチが軟らかかったり、骨が弱かったりしました。ヒト用のミルクを使う場合は改善が必要でしょう。

出産させる檻も大人のゾウが通れなくても、子ゾウには簡単に通り抜けられてしまいます。そのために柵に網を張り、通れなくしています。

そして最後は飼育員と獣医が交替で夜も起きてズゼを観察して出産に備えます。

(石川康司)



ハーネス



出産への準備 動物病院の場合から

動物たちの出産に向けた取り組み ～動物病院の場合から～

動物たちの出産を目前に控えた飼育員の奮闘は、これまでの記事でよくお解りになったことと思います。私たち動物病院の獣医は、この飼育員の奮闘を獣医学的にサポートし、そして多種多様な動物の出産に関するいろんな情報を収集し、管理しています。

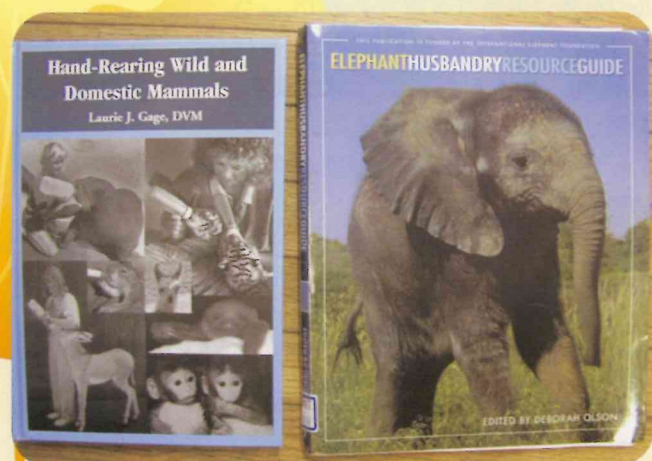
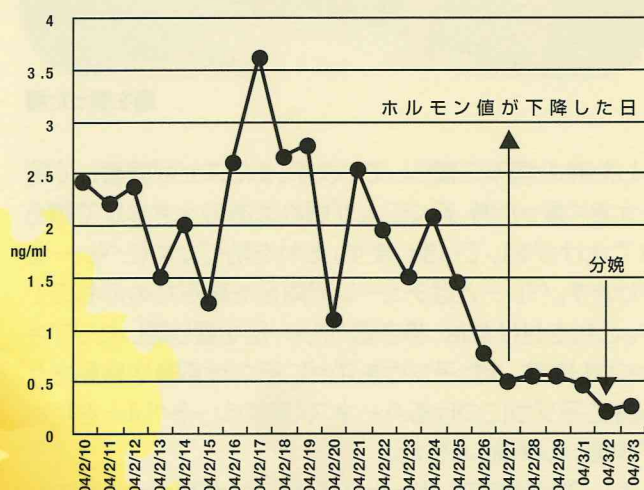
獣医学的なサポートでは、まず、インドゾウの出産に向けた取り組みで出てきたように、出産日を事前に予測するためのホルモン測定が挙げられます。ゾウの妊娠期間は

約22ヶ月と長く、出産日に数週間～1、2ヶ月のズレは当たり前のように起こります。なので、昼夜を通した分娩監視をいつから始めたら良いのかを確定する方法が必要なのです。それがホルモン測定です。ズゼの場合、前回のモモの出産の時には、出産の1ヶ月以上前から毎日採血をしてホルモンを測定しました。その結果、出産4日前にホルモンの値が下降して、出産が間近に迫っているのを知ることができました。昼夜を通した分娩監視を4日続けただけで、分娩に備えられたわけです。

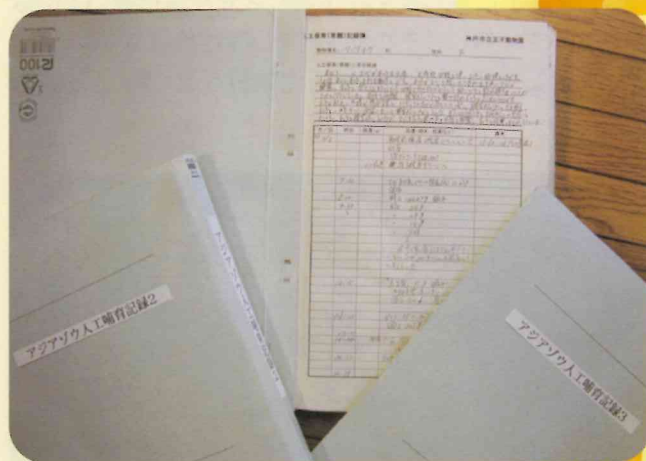
情報の収集は多種多様な動物の分娩に備えて非常に重要なことです。王子動物園では2007年7月末現在で144種の動物を飼育していますが、全ての種の動物の出産を経験しているわけではありません。ですから、初めての動物が出産する場合には他の動物園での経験や情報を入手しなければなりません。それにはいろんな書籍が役立ちます。また、インターネットの普及で現場に居ながらにして、日本国内あるいは海外の動物園の情報を早く入手することができるようになったのは非常に助かります。

情報の管理は、過去の経験を記録として残すことがその最大の仕事です。王子動物園では、例えば出産後母親が育児放棄した場合に実施する人工哺育の経過を記録簿に克明に残しています。これらの情報を残し、管理する仕事も動物の出産に向けた獣医師の大きな仕事のひとつとなっています。

(濱 夏樹)



動物の人工哺育の方法を紹介した書籍(左)とゾウの飼育の仕方や情報をまとめた書籍(右)



モモの人工哺育の記録。2003年3月2日の出産から2004年4月25日(死亡の前日)までの記録が3冊のファイルに収められている

新しい飼育員の紹介

田中正幸

建設局から花と緑のまち推進センター、布引ハーブ園、森林植物園、サッカー球技場と27年間いろいろな事務所を渡り歩いてきました。少しでもその経験をいかして、残りの13年間を生き物を相手に仕事をしてみたいと思い、動物園を希望しました。誕生と死がはっきりしているこの世界は、やればやるほど奥が深く、春夏秋冬、新しい発見があるのだと思います。少しでも早く仕事を覚え、動物の仕草や行動、ちょっとした変化にも気がつくように努力したいと思います。



佐藤公俊

はじめまして、4月23日付けでOJI ZOOのスタッフになりました佐藤公俊です。担当動物はフンボルトペンギン・キングペンギン・カリフォルニアアシカです。幼少の頃からOJI ZOOに通い詰め、いつかは自分もキーパーとしてここで働きたいと思っていました。それが実現した今、喜びと不安でいっぱいです。幼少の頃の新鮮な感情と瞳を大事にしつつ、日々先輩方のご指導を仰ぎ、一日も早く一人前のキーパーになれるよう、動物たちとともに頑張りたいです。

中根伸明

建設局機動隊事務所から来ました、中根伸明です。早いもので王子動物園で仕事をするようになって、数ヶ月たちました。はじめは、私も動物の方も緊張していましたが、今は仲良くなり顔を見せると寄って来てくれる様になりました。担当動物だけで無く、沢山の動物達とも仲良くなれる様、頑張りたいと思います。



下田康晴

初めまして!!この度、4月から王子動物園に配属になりました、下田康晴です。分からない事ばかりで、多々迷惑をお掛けするかもしれませんが市民サービスの気持ちを忘れず頑張りますのでよろしくお願いします。



フラミンゴのすむナクル湖

この湖の近くにはナクルという町があります。人口30万人。どんどん人口が増えてきています。湖からも家々が見えます。生活雑排水が湖に流れ込んでいます。湖は浅く、雨季と乾季で広さが大きく変わるようです。写真でナクル湖の周りの生き物をいくつか見てみましょう。フラミンゴだけではありません。

動物との距離は、動物園とは比べ物にならないくらい離れています。200mmの望遠レンズでこんな感じです。



フラミンゴがいっぱい



後ろには家々が



湖はどこも浅いよう



シロサイ



遠くにシマウマ



バッファロー

ほかに、ライオン、キリン、ヒヒ、ガゼル、イボイノシシ、アフリカハゲコウも見ました。

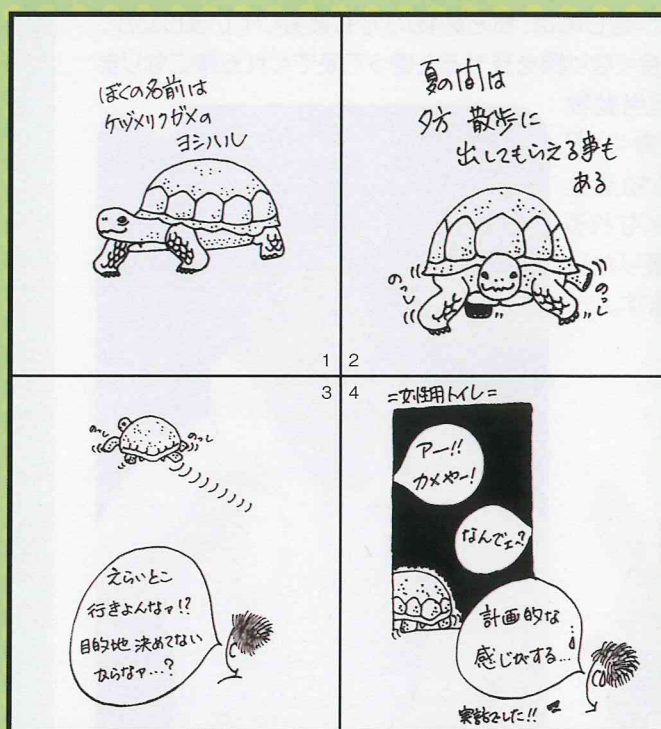
(池田正宏)



ZOO
タイムズ

No.27

まんが：かわがみ ひろし





カワウソ

食肉目 イタチ科

コツメカワウソ *Aonyx cinerea*

ヨーロッパカワウソ *Lutra lutra*



コツメ カワウソ

当園では、ヨーロッパ(ユーラシア)カワウソとコツメカワウソの2種を飼育している。

ヨーロッパカワウソはスコットランドからカムチャッカ、南はジャワまで広く分布する。コツメカワウソはヨーロッパカワウソよりも2回りほど小さく、あらゆるカワウソ類の中でも最小、体長41~64cm、尾長25~35cm、体重5kg。

カワウソ類はイタチ科で唯一、水陸両的な生活ができる動物で、主に水中で食物を取る。野生での食物は主にカエル、ザリガニ、カニ、魚(動きの遅いドジョウなど)を食べる。捕まえた獲物はすぐに食べ、隠したりはしない。

当園でも毎日、昼から生きたドジョウをプールに放して与えているので、上手に捕まえて食べる姿を見ていただきたい。

また、季節に関係なく、いつでも水に飛び込める秘密は、びっしりと密生した下毛と、それを保護する長い剛毛で水をはじき、皮膚にまで冷たさが伝わらないといわれている。

動物園での一口メモ

現在、王子動物園で生活しているカワウソは4頭です。広い運動場には2頭のコツメカワウソがいます。最近ダイ

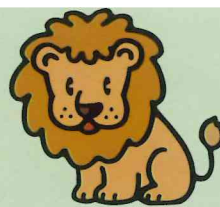
エットに成功したオスの「ハジメ」と、おとなしくいつも「ハジメ」の後を付いてくるメスの「アケビ」。小さい運動場にはコツメカワウソとヨーロッパカワウソが同居しています。16歳になる気の優しいおじいさん「スケさん」(ヨーロッパ)と、新しく仲間入りしたオスの「アトム」(コツメ)です。怖がりで臆病で仲間になじめなかった「アトム」は、なぜか「スケさん」とは気が合い、いつも甘えてばかりのまだまだ子どもカワウソです。

将来は「アトム」と「アケビ」のペアリングも試み、二世の誕生を楽しみにしています。

(小川高志)



ヨーロッパ カワウソ



ライオン

食肉目 ネコ科

Panthera leo



ライオンは、かつて南ヨーロッパ、アフリカ全土、アジアなどサバンナから砂漠までいろんな環境に生息していたが、今日では、主にアフリカに限られている。

ライオンは、トラと並ぶネコ科最大の動物で、体長は1.7m～2.5m程もあり、体重は約180kg～260kg。

オスはよく知られているたてがみがあり、頭と肩、のどや胸を覆い、争いのとき相手の攻撃から身を守るのに適している。また、遠く離れた場所からも目立ち、近くにいる相手に自分をより大きく見せ、相手を脅かすことができ、戦うことに適している。これが百獣の王たるゆえんかもしれない。メスはオスより小さく、毛色が黄褐色で短毛である。

ライオンは、ネコ科の中でも変わり者だ。なぜなら『群れをつくる』からだ。ほとんどのネコ科は単独で生活しているが、ライオンは仲間とともに生活してプライドという群れをつくっている。プライドは、数頭から数十頭にもなり、普通数頭のオスに5～6頭のメスと、その子供たちで生活している。

ライオンは、獲物を狩るとき群れで協力して狩りをする。狩りの方法は、草むらに隠れて忍び寄って近づき飛びついたり、2手に分かれて一方が隠れている相手の方へ獲物を追い出し、それを待ち伏せしているもう一方が捕らえたりする。この場合、追い出し役はオスで、獲物を捕らえる役目をメスがする。実は行動や反応はメスの方がすばやい。スピードは時速60km以上、トラよりも足が長く速いが、あくまでも短距離しか走れない。しかし、幅跳びで10m以上、高飛びで2.5m以上の高さを飛び越せる。また、力が強く、数

百kgの重さの物を引きずって持っていくことができる。

グループでのハンティングも必ずしも成功率は高くなく、群れが大きくなると1頭当たりの分け前が少なくなってしまう。よって最適な群れのサイズが必要になってくる。

ほとんどのメスは、プライドに残って繁殖をするが、オスは3歳になるとプライドを出て行くか、追い出される。彼らはオス同士で集団をつくり、他のテリトリーに気を使いながら2年くらい1つのグループで一緒に生活をする。5歳くらいになり、かなり大きくなったオスは、プライドの年老いたオスに挑戦し、そのテリトリーを乗取る。成功した場合オスは前からいた子を殺すことがあり、そして新しい自分の子を産ませて完全にプライドの乗っ取りを終える。

オスは、プライドを治めている数年はとても忙しく、テリトリーのパトロールをして侵入者を追い出したり、エリア内でマーキングをしたりで多くの時間を使う。そしていつか年老いて若いオスに挑戦され追い出される日まで、グループの長として君臨する。

動物園での一口メモ

王子動物園のライオンは、オスが「ラオ」、メスが「サクラ」です。

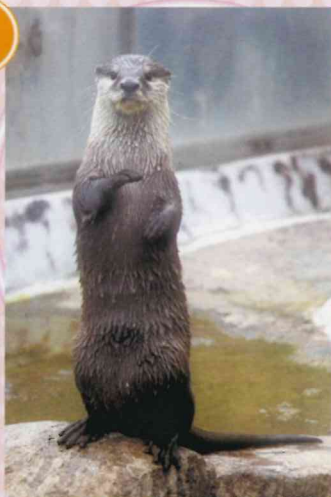
エサは、馬肉3～4kg、鶏ガラ2個、手羽先4本を毎日1回夕食として寝室で与えています。

オスとメスは離れている時が多いのですが、発情の時などはオスがメスの後にくっついて離れません。この辺りは普通のネコと同じです。
(清水哲夫)

動物の話題

ニューフェイス

コツメカワウソ
「アトム」(オス)
東山動物園より
平成19年2月26来園



アカカンガルー
(オス)
多摩動物公園より
平成19年5月10日来園

ベビー誕生

フサオマキザル
平成19年5月4日1頭出生
6月4日2頭出生



別れ



フタユビナマケモノ
(オス)
平成19年7月5日死亡



コモンリスザル
平成19年6月24日出生





第19回 アマチュア動物写



神戸市長賞
「アロマテラピー」
東芝泰子(奈良県奈良市)



神戸新聞社賞
「勢」
白石光作(大阪市天王寺区)



入選……10点

佳作……20点

応募総数…749点

審査:動物写真家 田中光常先生



王子動物園長賞
「ちっ!」
小野寺香織(東京都江戸川区)



サンテレビ賞

「昼下がり」

今井康之(神戸市兵庫区)



神戸市動物愛護協会会長賞

「寄り添える幸せ」

菊地正人(大阪市北区)



神戸市公園緑化協会賞

「こっち向いてよ」

赤井昇(神戸市北区)



兵庫県写真材料商協同組合賞

「夫婦の愛情」

村上加洋(神戸市西区)

(棚橋一美)

特別展「フラミンゴ特集」

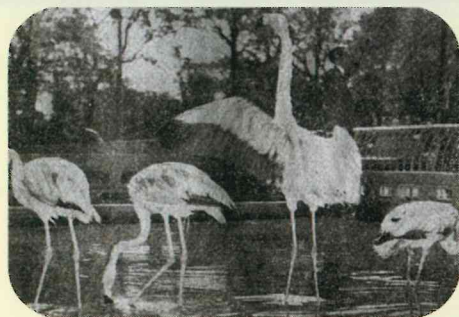
～繁殖日本一の舞台裏～より

2007.3.21～10.30



481羽…この25年で当園でふ化したフラミンゴの数

今回の展示はこれまで繁殖に成功するまでの飼育の記録を紹介しました。



1963年 フラミンゴ飼育開始
当初6羽、他の鳥と雑居だった。



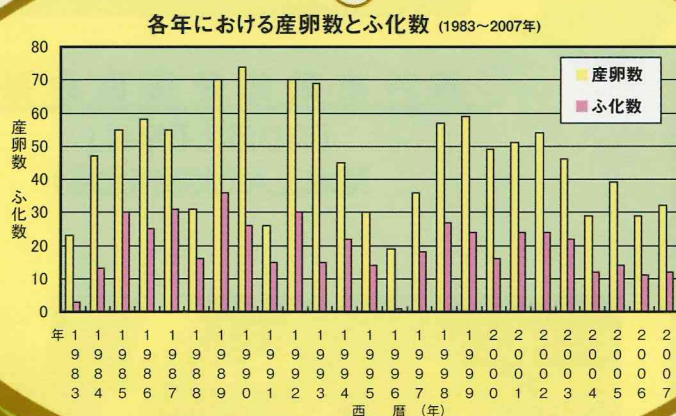
1969年 フラミンゴ舎完成。
当初61羽



1977年 初めて当園で育ったヒナ「フーちゃん」
(日本初のヨーロッパフラミンゴ、人工繁殖に成功)



1983年 フラミンゴ舎改良。天井に
ネットを張り、夜間囲いに移動したり、風
切羽を切るのをやめました。この年から
繁殖が始まりました。



自然繁殖で生まれたヒナ

1983年、はじめて自然繁殖で3羽のフラミンゴが誕生しました。その3年後にはふ化数30羽(産卵数が55個)となり、1989年、ふ化数36羽(産卵数が70個)と最高値を記録しました。1996年、飼育場に外敵(タヌキ?)が夜間に侵入し、いくつかの卵が持ち去られ、この年は1羽しか育ちませんでした。その後、順調に繁殖(毎年25羽前後のヒナのふ化)が続きました。この25年間の合計ふ化数は481羽(産卵数1153個)、平均ふ化率は41.7%になりました。



2007年 現在のフラミンゴ飼育数は約
200羽。これまでは増やすことを目的と
してきましたが、最近では手前にもあった繁
殖用の島をなくすなど適切な繁殖数を考
慮し飼育しています。



飼育してわかったこと

子育てでだんだん白くなるベニイロフラミンゴ



フラミンゴはヒナが大きくなるにつれて、鮮やかだった親の羽色はだんだん色あせていきます。これは赤色のもととなる色素「カンタキサンチン」が含まれているフラミンゴミルクを親がヒナに与えるため、そちらへ親の体内の色素が奪われ、羽色がだんだんあせてくると考えられています。

他人の子育てお手伝い

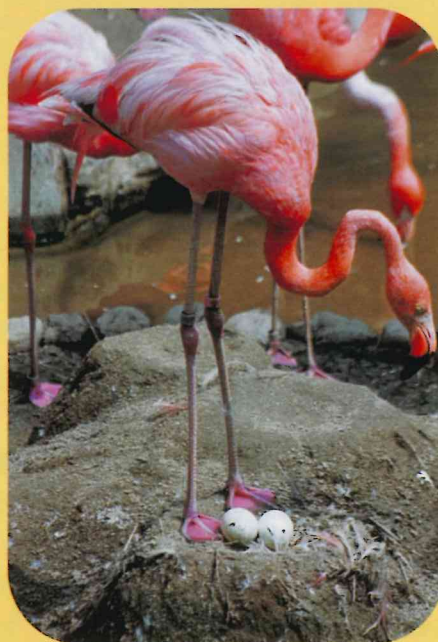
コガタフラミンゴが
ベニイロフラミンゴの子育てを手伝う



ヘルパー（子育ての手伝いをするフラミンゴ）になるのは親子関係にある生後1～2年の若いフラミンゴが一般的です。しかし違う種のコガタフラミンゴからフラミンゴミルクをもらうベニイロフラミンゴのヒナが観察されました。

フラミンゴはふつう一卵

でも卵が2個？



ふつう1つの巣に卵は1個なのに、2個産みました。今まで25年間で5例、観察されています。

（安宅範子）

サポート企業をご紹介します

動物サポーター

住まいのことなら、神戸市設置の公的相談窓口へ



078 (222) 0005(午前10時～午後5時)
http://www.smaile-net.co.jp/
神戸市立王子動物園の運営にご支援をいただいております

神戸市立王子動物園

動物サポーター



神戸市立王子動物園の運営にご支援をいただいております

神戸市立王子動物園

動物サポート企業

株式会社 浦和機工

http://urawakikou.co.jp

TEL:06-6489-4315

神戸市立王子動物園の運営にご支援をいただいております

神戸市立王子動物園

動物サポーター

サイクルショップ TOMATO

姫路市下野 2-3-10

カワヅ、サカヅ、サカヅ、サカヅ

「たすけあし」さん

神戸市立王子動物園の運営にご支援をいただいております

神戸市立王子動物園

支援する動物 ホンドフクロウ

神戸市住宅供給公社

神戸市すまいの安心支援センター

神戸市中央区雲井通5丁目3-1

支援する動物 フクロテナガザル バルマワラビー

神戸ベンチャークラブ

神戸市東灘区田中町1丁目3-22-205

支援する動物 ヒグマ

株式会社浦和機工

兵庫県尼崎市長洲西通2丁目11-4

支援する動物 ショウガラゴ

有限会社とまと

兵庫県姫路市下野2-3-10

動物サポーター個人支援者一覧

- 橋本 匠 ・ 北村 ひろみ
- 松山 寛子 ・ 平嶋 弥生
- 三浦 里鶴子 ・ 中野 佳英
- 中垣 月花 ・ 鈴木 馨
- 加藤 史絵 ・ 岡田 真澄
- 杉本 治子 ・ 石本 まひか
- 野島 晶 ・ 河口 聖奈
- 岡村 朋奈 ・ 若林 カズ
- 杉本 令名人 ・ 杉本 亜美名
- 田中 輝 ・ 二之湯 達也

(※平成19年9月30日現在。前号掲載以降、新規登録され掲載希望のあった法人・個人のみ掲載)

日頃のご支援を感謝申し上げます

動物サポーター大募集

～市民に親しまれ、市民とともに活性化することを目指して～

王子動物園では、動物サポーター制度を実施しています。

この制度は、動物園を支援していただける企業等(法人サポーター)・個人(個人サポーター)からの寄附(年単位)を、動物たちのエサ代や動物舎の整備などの運営経費に充てるというもので、動物園をより身近に感じていただき、市民に支えられながら動物園の活性化を進めていくことを目的としています。

法人サポーター

対象は法人・企業・団体で、ご寄附いただいた法人等については、園内の動物舎前等にその名称を記載したプレート(デザイン等は原則共通)を設置します。

また、それぞれの法人等は、王子動物園を支援している旨を記したロゴ入り支援マークを使用することができます。

個人サポーター

ご寄附いただいた個人の方については、お名前を園内の支援者一覧に掲載するとともに、年間パスポートや機関誌、サポーターシールなどを贈呈します。

対象	大人	中学生以下
一 □ (年額)	10,000円	1,000円

(飯田久人・重田栄昭)

飲みたいものが、 ここにある！

カップ式自動販売機でくつろぎを演出します。

株式会社アペックス

◆お問い合わせ

神戸支店 兵庫県神戸市中央区港島南町1-4-8 〒650-0047 電話 (078)306-2130
<http://www.apex-co.co.jp>



おいしさを笑顔に

KIRIN



おいしさと健康
Glico

New! seventeen ice

グリコセブンティーンアイス





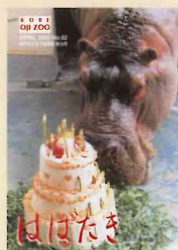
インドゾウ「諏訪子」

- 特別展開催
- ゾウのトレーニング(毎日11時・2時ごろ)
- ふれあい広場
…『ふれあいタイム』(団体は要予約)(毎日)
- 動物に関する教育支援事業
- 動物教室・ペンギンガイド(日曜・祝日)
- テレホンサービス…☎078-881-8102
- ホームページ…<http://www.ojizoo.jp>
- 休園日:毎週「水曜日」
(但し、祝日と重なる場合は開園)、
12月29日から1月1日

バックナンバー・売店で販売中



51号



52号



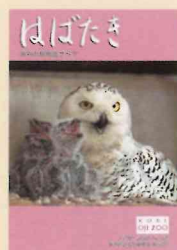
53号



54号



55号



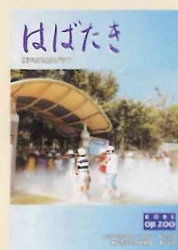
56号



57号



58号



59号



60号

編集後記

この号の編集会議をしたときは、カバ、ジャイアントパンダとゾウの出産が予定されていた、今年は王子動物園ベビーラッシュと期待が高まっていたのですが、この編集後記を書いている今、カバ赤ちゃんが生後3日で死亡、パンダが死産という大変残念な結果になってしまいました。ともに初産でリスクが高かったのですが、妊娠したという事実は大きな1歩と考えています。特に多くの人々が待ち望んでいるパンダは、来期には今年の経験と新たな飼育の工夫を加えて、ぜひ成功させたいと職員一同思っています。

ゾウは10月が出産予定ですが、ズゼの3子目であり、飼育体制を整え、無事出産し育て欲しいと願っています。

(副園長 高井昭)

はばたき 第61号
2007(平成19)年10月1日発行

企画・監修 神戸市立王子動物園
☎078-861-5624
編集・発行 (財)神戸市公園緑化協会
動物園事業部
〒657-0838
神戸市灘区王子町3-1
☎078-801-5711
デザイン・印刷 (株)岸本印刷所
☎078-262-5471



定価300円(消費税込み)

2007.10.3000